

⑥1 復興支援道路整備事業 一般国道397号小谷木橋工区

受賞機関 岩手県 県南広域振興局 土木部

キーワード 道路ネットワークの多重性、事業の見える化、詳細デザイン検討委員会

全建賞審査委員会の評価ポイント

北上川を渡河する橋梁の新設事業。学識経験者による景観検討委員会での周辺環境と調和したデザインの検討や、事業の見える化により現場見学会を積極的に実施するなど、地域と一体となって整備に取り組んだことが評価された。

1. はじめに

岩手県奥州市の一般国道397号小谷木橋は、架橋から70年近く経過し老朽化が著しく、また、幅員が狭く大型車のすれ違いが困難な交通の隘路であったこと、東日本大震災後の4月7日に発生した震度6弱の地震により甚大な被害を受け約4ヵ月間通行ができなくなったことなど、安全で円滑な通行に課題があった。このため、小谷木橋の上流側に、橋長597m幅員6.5m(15.0m)の新小谷木橋へ架け替えを行い、令和3年5月に開通した。

2. 事業の概要

新小谷木橋は、今後、長期にわたり地域の生活や産業活動を支え、地域のシンボルとなる重要なインフラとなることから、計画時点から学識経験者や地元住民等で構成する景観検討委員会、詳細デザイン検討委員会等を組織して検討を進め、新小谷木橋の基本コンセプトである「河川空間および遠方の山並みの風景と調和した橋」を踏まえた橋梁設計を行った。



詳細デザイン検討委員会の様子

また、新小谷木橋詳細デザイン検討ワークショップを開催し、バルコニーの形状や橋詰広場のレイアウトに地域住民の意見を取り入れる取組を行った。

橋梁築造工事では「事業の見える化」を積極的に実施し、平成28年6月～令和2年10月において、地元小学校や地域住民等を対象とした現場見学会等を24回開催し、約620名が参加して、計画から施工まで地域と一体となって整備を進めた。

3. 事業の成果

新小谷木橋の整備により、小谷木橋が抱える課題が解消され、安全で円滑な交通が確保されるほか、東北横断自動車道釜石秋田線の代替路として災害時等の広域的な道路ネットワークの多重性が図られることに加え、県内陸部の工業集積地と沿岸部の重要港湾との物流の効率化、新たな観光周遊ルートの強化等、地域の活性化を促進することが期待される。



景観検討委員会にて提言されたデザインを取り入れた新小谷木橋

4. おわりに

現場見学会では、施工状況や架設作業を間近で見学した後、参加した子供たちが橋脚の壁に様々なメッセージを描くイベントも実施した。メッセージは現在見えなくなっているが、これから先も橋梁の一部として残り続けていくことから、新小谷木橋が将来に渡って地域に親しまれていくことを期待する。

賛助会員 オリエンタル白石(株)、JFEエンジニアリング(株)、(株)片平新日本技研、(株)小田島組、(株)平野組、北日本機械(株)、板谷建設(株)